

阿蘇市水道事業 中期経営計画

達成状況中間報告

平成 20 年 5 月

1、達成状況の中間報告

水道事業は、独立採算による経営を基本理念に、清浄にして豊富低廉な水の安定供給を行うため、適切かつ効率的な事業運営の観点から、今後、より一層の経営改革と経営基盤の強化に取り組み、経営の健全化及び事業の活性化に努める必要があります。

こうした状況を踏まえ、平成18年3月に策定した阿蘇市水道事業中期経営計画(計画期間:平成17年度から平成21年度)に基づき、その経営内容の改善に向け取組を進めてまいりましたので、以下のとおり中間報告します。

2、事業運営の基本方針

(1) 計画の位置付け

中期経営計画は、阿蘇市総合計画に基づき、水道事業の阿蘇市集中改革プランとして平成18年度から21年度までの具体的な取り組み目標を設定し、着実に推進するために策定するものであります。

(2) 計画策定の期間

開始年度	平成17年度
終了年度	平成21年度

(3) 財政運営の目標

上水道事業で10,000千円、簡易水道事業で500千円以上の純利益の確保を目指します。

(4) 定員管理及び給与の適正化の目標

定員管理については、「阿蘇市定員適正化計画」に基づき、平成22年度までに4.6%の人員削減を行います。

給与の適正化については、一般会計の給与の適正化計画に準じ改善を図ります。

(5) 目標とするサービス水準や顧客満足度

電話、インターネットによる各種申込、コンビニエンスストア収納委託を検討し利用者の利便性を図り併せて収納率の向上を図ります。

(6) 経営基盤強化への取組に係る基本方針

老朽化した設備の改修と管理システムの近代化、アウトソーシングの導入等を積極的に行います。

3、事業計画とその達成状況

① 将来需用予測

	17年度		18年度		19年度		20年度	21年度
	計画	決算	計画	決算	計画	決算見込	計画	計画
給水人口（人）	26,100	24,540	26,100	23,841	26,100	23,649	26,100	26,100
年間総給水量（千 m^3 ）	3,181	3,191	3,181	3,071	3,181	3,110	3,181	3,181
1日平均給水量（ m^3 ）	11,300	11,639	11,300	11,289	11,300	11,711	11,300	11,300
説明	給水人口は減少傾向にありますが、年間総給水量は、観光人口の影響を大きく受けるので、3,100千 m^3 前後で推移するものと予測されます。							

② 収益的収支及び資本的収支

(1) 収益的収入

(単位: 千円)

	17年度		18年度		19年度		20年度	21年度	
	計画	決算	計画	決算	計画	決算見込	計画	計画	
収益的 収入	使用料収入	445,500	459,170	445,500	439,395	445,500	447,235	445,500	445,500
	他会計補助金	45,000	44,418	45,000	45,226	45,000	45,456	45,000	45,000
	(内基準内繰出)	(20,000)	(13,274)	(20,000)	(14,447)	(20,000)	(14,430)	(20,000)	(20,000)
	(内基準外繰出)	(25,000)	(31,144)	(25,000)	(30,779)	(25,000)	(31,026)	(25,000)	(25,000)
	合計・・・(A)	490,500	503,588	490,500	484,621	490,500	492,691	490,500	490,500
説明	収入合計は年間総給水量に比例して増減しますが、490,000千円前後で推移するものと予測されます。								

(2) 収益的支出

(単位: 千円)

	17年度		18年度		19年度		20年度	21年度	
	計画	決算	計画	決算	計画	決算見込	計画	計画	
収益的 支出	人件費	83,000	85,757	89,000	86,288	89,000	80,609	89,000	83,000
	物件費	391,000	337,071	391,000	358,414	391,000	355,661	391,000	393,000
	合計・・・(B)	474,000	422,828	480,000	444,702	480,000	436,270	480,000	476,000
効果及び効果額	物件費において、町村合併に伴う固定資産の再評価を実施した結果約40,000千円の固定資産費用が減少したものです。					平成18年度に対して、決算見込みの物件費が約6,000千円減少しているのは、職員が1名減となったためです。		過去3年の実績から決算見込みの支出額は、430,000千円前後と予測されます。	

経常損益・・・(A)-(B)	16,500	80,760	10,500	39,919	10,500	56,421	10,500	14,500
----------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

(3) 資本的収入

(単位:千円)

		17年度		18年度		19年度		20年度	21年度
		計画	決算	計画	決算	計画	決算見込	計画	計画
資本的 収入	企業債	160,800	160,900	140,000	96,300	100,000	260,500	100,000	50,000
	他会計補助金	18,000	14,958	18,000	17,939	18,000	20,612	18,000	18,000
	(内基準内繰出)	(18,000)	(7,908)	(18,000)	(9,208)	(18,000)	(10,181)	(18,000)	(18,000)
	国庫補助金	41,777	41,777	48,000	48,090	30,000	0	0	0
	その他	0	13,904	0	12,045	0	28,090	0	0
	合計…(A)	220,577	231,539	206,000	174,374	148,000	309,202	118,000	68,000
説明		企業債は黒川送水管布設替工事95,000千円、波野簡易水道工事費65,900千円を借入れ。国庫補助金は全額波野簡易水道工事分です。		企業債は上水道老朽管更新事業工事21,000千円、波野簡易水道工事費75,300千円を借入れ。国庫補助金は全額波野簡易水道工事		企業債は一の宮第5水源地施設整備及び送配水管布設工事200,000千円、7%台の高金利で借入れた企業債の繰上償還として60,500千円を借入れ。		企業債償還について、6%台の高金利で借入れた企業債の繰上償還を予定しているが計画には盛り込んでいません。	

(4) 資本的支出

(単位:千円)

		17年度		18年度		19年度		20年度	21年度
		計画	決算	計画	決算	計画	決算見込	計画	計画
資本的 支出	建設課改良費	254,900	219,018	240,000	212,869	200,000	241,766	100,000	100,000
	企業債償還金等	92,100	133,195	142,300	139,620	137,000	201,325	138,200	138,300
	合計…(A)	347,000	352,213	382,300	352,489	337,000	443,091	238,200	238,300
説明		建設改良費の主要な工事は、黒川送水管布設替工事95,000千円波野簡易水道工事107,677千円です。		建設改良費の主要な工事は、一の宮第3配水場設備改修工事14,049千円上水道新規水源試験工事17,200千円老朽管更新事業21,976千円波野簡易水道工事123,390千円です。		建設改良費の主要な工事は、一の宮第5水源地施設整備及び送配水管布設工事203,336千円、下水道工事に伴う布設替工事26,000千円です。企業債償還金等には、7%台の高金利で借入れた企業債の繰上償還として60,679千円が含まれています。繰上償還を行うことで、将来負担すべき金利約10,763千円が削減されます。		企業債償還について、6%台の高金利で借入れた企業債の繰上償還を予定しているが計画には盛り込んでいません。	

収入 - 支出 (A) - (B)	△ 126,423	△ 120,674	△ 176,300	△ 178,115	△ 189,000	△ 133,889	△ 120,200	△ 170,300	
説明	資本的収入額が支出額に不足する額は、消費税資本的調整額、損益勘定留保資金等で補填します。								

③ 主要施策

	施策名		実施時期	内容 (理由)
1	新水源開発調査	計画	平成18年4月	上水道安定供給のため
		実施	平成18年9月～10月	完了
2	新水源さく井工事	計画	調査完了後早期	上水道安定供給のため
		実施	平成18年12月～19年2月	完了
3	送配水施設新設更新事業	計画	平成18年4月	老朽化対策と安定供給のための予防管理体制の構築
		実施	平成18年4月～20年3月	宮地地区と黒川地区の配水管の接続と一の宮第5水源施設整備及び送配水管布設工事が完了し上水道の安定供給が図られた。
4	波野簡易水道施設整備	計画	平成18年4月	波野地区の安定供給のため。
		実施	平成18年11月～19年3月	平成8年度からの継続事業が完了し、安定供給が図られた。
5	山田簡易水道施設整備	計画	平成19年4月	石綿セメント管の布設替及び老朽施設の改修。
		実施	平成21年度以降	県道内牧坂梨線道路改良工事の計画区間のため、同時施工とする

④ 設備投資計画

(単位:千円)

	17年度		18年度		19年度		20年度	21年度
	計画	決算	計画	決算	計画	決算見込	計画	計画
水源開発関連事業	0	0	2,000	17,200	50,000	114,697	0	0
送配水施設新設更新事業	95,000	105,900	75,000	174,927	50,000	84,550	50,000	50,000
老朽管更新事業	110,000	94,300	20,000	13,800	100,000	0	5,000	5,000
説明			送配水施設新設更新事業の投資額が増加したのは、一の宮第3配水場インバーター施設の改修が発生したこと、波野簡易水道施設整備が事業の最終年度であり、事業費が増加したためであります。		平成18年度の上水道新水源試掘結果が良好であったため、19年度事業で整備完了し、平成20年4月1日から黒川地区、一の宮地区の一部に給水を開始しました。			

⑤ 企業債残高

(単位:千円)

	17年度		18年度		19年度		20年度	21年度
	計画	決算	計画	決算	計画	決算見込	計画	計画
元金総額(全て公的資金)	2,698,924	2,859,821	2,859,800	2,816,501	2,857,700	2,875,676	2,820,700	2,782,600
説明	企業債は新規借入が発生するので残高の変更が生じます。							

(2) 中期指標

	17年度		18年度		19年度		20年度	21年度
	計画	決算	計画	決算	計画	決算見込	計画	計画
経常収支比率 (%)	103	119	102	109	102	113	102	102
不良債務比率 (%)	0	0	0	0	0	0	0	0
累積欠損金比率 (%)	0	0	0	0	0	0	0	0
繰入金比率 (%)	10.0	8.8	10.0	9.3	10.0	9.2	10.0	10.0
職員一人当り営業収益(千円)	1,375	6,730	769	3,326	769	5,129	769	1,000
顧客満足度 (%)	70	70	70	70	75	80	80	85

(3) 定員管理に関する計画

(単位:人)

	17年度		18年度		19年度		20年度	21年度
	計 画	決 算	計 画	決 算	計 画	決算見込	計 画	計 画
職 員 数	12	12	13	12	13	11	13	12
説 明	阿蘇市定員適正化計画では平成22年4月の職員数を11名と定めており、平成19年度に目標を達成しています。							

(4) 給与の適正化に関する計画

給与の適正化については、一般会計の適正化計画に準じて平成18年度から実施しています。

4、経営基盤強化への取組

(1) 経営改革への取組

取組内容は、3、事業計画とその達成状況のとおりです。

(2) 経営効率化への取組

	委託内容		取 組 状 況
民間委託の導入	検針徴収業務	計 画	平成16年度までに80%実施済
		実 施	平成19年度でほぼ100%実施済
	水質試験業務	計 画	平成16年度までに100%実施済
		実 施	継続
	高圧受電設備管理業務	計 画	平成16年度までに100%実施済
		実 施	継続
	各施設の定期管理業務	計 画	平成16年度までに50%実施済。平成21年度には80%まで引き上げる。
		実 施	平成19年度までに80%実施済
	設計業務委託	計 画	平成16年度までに100%実施済
		実 施	継続

(3) 人材育成への取組

専門知識と技術習得のため、毎年度必要に応じて研修会等に参加しています。

5、経費削減等の取組による効果額

平成19年度に職員を1名削減したことにより人件費を約6,000千円削減しました。

一の宮第5水源地施設整備事業の完成により、動力費が年間約2,000千円程度削減される見込みです。

繰上償還を行うことで、将来の金利負担を約10,763千円削減します。また、平成20年度も繰上償還を行い更なる金利負担の削減を行います。

6、計画達成状況の結果の公表

(1) 最終報告の公表時期 平成22年5月

(2) 公表方法

阿蘇市ホームページへの掲載により公表します。